

大通公園を望む窓辺から

時代の流れ

常任理事 北野 明宣

医師の働き方改革の一環として診断書記載の負担軽減をはかるため、生命保険協会と日本損害保険協会はそれぞれ3月に関連するガイドラインを改定した。要望の多い、診断書様式の統一については医師・医療機関に追加での確認や照会が発生するため、かえって負担になるケースが想定される事情があったとした。

各種生命保険診断書作成に関するソフトウェアは民間から販売されており、数百万円もかかり、個人開業医や規模の小さい病院施設では費用対効果が悪い。

生命保険診断書は要望にお応えして医師が協力して書いているもので、各生命保険会社は保険契約者が各自の利益のため保険を契約しており、必要に応じて関係書類の提出を契約者に求めている。したがって、医師が記載を協力しているの、各保険会社が必要に応じて医師側が書きやすいように書式のダウンロードをできるように協力すべきではないだろうか。

業者にソフトを提供して医師側にソフトを購入させるようなやり方はいかなものか疑問に思う。受益者負担の原理を求めたい。

一方、戦後の混乱期だった昭和23年施行の生活保護法の中に、指定医療機関は役所の求めに応じて報告をすべきという条文があるため、今でも役所の求めに応じて対応している。昔、生活保護法に基づくレセプト請求は金券であるという理由から、発行された指定番号付レセプト用紙に各自が作成したレセプトを切り貼りしてレセプト請求していた。しかし、IT化の時代に入り、それも番号記載によりレセプト請求が可能になった。精神科年金診断書作成請求もIT化するのに5年以上の時間を要したが結局はIT化された。医師の主治医意見書その他各種精神科関係書類は全てIT化されている。したがって公文書でもかなりの関係書類がIT化されているので、生命保険等の診断書もすみやかにIT化移行が望まれる。



IR(統合型リゾート)と医療

理事 沖 一郎

IRの誘致に苦小牧市が北海道では最有力などの記事を目にされた方もいらっしゃると思いますが、そもそもどのようなものか？わからない方が多いと思いますので簡単に紹介します。

候補地は苦小牧市とありますが、千歳空港の南西側ほぼ千歳市に接し、道央圏の中心に位置しております。北海道誘致に関しては前知事の高橋氏が苦小牧市が有力と言いながら結局最後まで曖昧のまま参議院選挙に出たことから、現知事の鈴木氏が決定の権限をもっております。苦小牧市は政令指定都市ではないため、知事がその権限を持っているわけです。しかし、現時点では未だはっきり決定の判断をしておりません。

IRに関してどのようなものか紹介させていただきます。IR(Integrated Resort)は統合型リゾートと訳されています。統合と言うとおりの色々な施設を一つのエリアにまとめたリゾート拠点がIRです。中心はMICEと呼ばれ国際会議場、学会などの会議場や展示会、見本市、イベントなどの施設展示場やホテルなどの宿泊施設、劇場、映画館、博物館、美術館、水族館、スポーツアリーナなどの文化、エンターテインメント施設やレストラン、ショッピングモールなども含まれています。カジノはほんの一部でしかありません。しかしなぜカジノがあるのか？カジノはIR全体の数%ですが、実は収入面ではIRにとって重要な施設です。シンガポールを例に挙げるとマリーナベイ・サンズではIRの売り上げの約8割を占めています。カジノは利益率の高い施設なのです。北海道のIRもシンガポールがお手本と言われています。北海道もIRを起爆剤としてさらに発展することが期待されるわけです。

IRのメリットは観光客の増加、雇用の創出、周辺産業の増収などが考えられます。医療とIRの関係は医療ツーリズムによる外国患者等の開拓、IRの従業員の健康管理などが現在考えられていますが、年間数万人以上の観光客、およびIRの数千人にも及ぶ従業員の健康管理など今までの北海道では一度に経験したことのないレベルの大きさです。ですから決定はまだですが、何時決定されてもいいように苦小牧市医師会は様々なルートを使って準備をしております。地元の新聞報道もカジノ反対と一面のみとらえた論調です。これからの北海道の医療の更なる発展の可能性を秘めた重要なIRです。他の候補地に負けない知事の早期の決断を期待しています。